

家族経営と農業法人の技術効率と資源配分効率の比較 — 日本の稲作部門における実証分析 — (要旨)

新潟県立大学北東アジア研究所准教授
董琪

農業法人は伝統的な家族経営よりも効率的だろうか?本研究では、家族経営と農業法人の技術効率と資源配分効率を考察し、この問いに答えることを試みた。具体的に、日本の稲作部門における家族経営と農業法人のパネルデータベースを構築し、確率的フロンティア生産関数の推定し、同規模の生産形態間で技術効率と資源配分効率を比較した。その結果では、家族経営は各経営規模レベルで技術効率において農業法人よりも有意な優位性があることが明らかになった。両方の生産形態では、経営規模が増加するにつれて技術効率も向上する。しかし、これら2つの生産形態間の技術効率格差は土地規模が大きくなるほ

ど減少している傾向がある。一方で、異なる土地規模では家族経営と農業法人の資源配分効率に差がある。全体的に、家族経営は労働力の配分効率で優位性を示し、農業法人は農業資本の配分効率で優位性を示している。最後に、総生産性進歩(TFP)の分解では、家族経営は正のTFP変化を持ち、その主要な要因は正で大きな配分成分であるが、一方で農業法人は負のTFP変化を経験しており、その主要な要因も負で大きな配分成分である。さらに、結果からは技術進歩と技術効率改善が家族経営よりも速く進んでいることが示唆されている。